

展示 PICK UP

■ 2F パープルゾーン 三角台

～4月22日(金)

春はじまりの季節

春は草花が芽吹き、生き物が活動し始める季節。また、入社、入学、進学など、新しく何かを始める機会の多い季節でもあります。この展示では、春に芽吹く草花や、様々な場所で新たな挑戦をする人々の手助けになるような本を展示し、はじまりの季節である春を、様々な視点から紹介します。



『パーク・ライフ』

- 吉田修一 著
- 文藝春秋
- 2002年

『自分のアタマで考えよう』

- ちきりん 著
- ダイヤモンド社
- 2011年

■ 3F ブルーゾーン [アート・言語・文学]の本を集めたゾーン

～6月17日(金)

MANGA

今や国内のみならず世界で広く読まれ愛されている日本の漫画。かつて「浮世絵」や「北斎漫画」が世界に影響を与えたように、漫画もまた新しい日本文化「MANGA」として世界に影響を与えるまでになっています。この展示では漫画の歴史を辿りながら、日本の漫画、海外の漫画、漫画から生まれた文化について紹介します。

←漫画の魅力を感じて欲しいです。

漫画の歴史の解説もあります。→

【本との出会いに、ブックガイド3選】

知らない本と出会う体験は楽しいものですね。この春に読みたい本をブックガイドで探してみませんか？異なるテーマの3冊をご紹介します。

海外文学の面白さを伝えるフリーブックレットを書籍化したブックガイド。訳者の翻訳小説への熱い思いが詰まっています。

『BOOKMARK 翻訳者による海外文学ブックガイド』

- 金原 瑞人、三辺 律子 編
- CCCメディアハウス ●2019年

「宇宙」「生命」「未来」というテーマごとに科学者たちが案内する100冊の本を手がかりに、科学の世界を旅しましょう。

『サイエンス・ブック・トラベル 世界を見晴らす100冊』

- 山本 貴光 編
- 河出書房新社 ●2015年

写真評論家の飯沢耕太郎氏が厳選した写真集を図版と解説で紹介。各時代の傑作写真集から写真表現の歴史を学べる一冊です。

『写真集の本 明治～2000年代までの日本の写真集662』

- 飯沢 耕太郎、打林 俊著
- 中村 善郎 編 ●カンゼン ●2021年

4月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 「千代田文人物語 ～町名由来板が導く文化の系譜～」(～7/15) NEW!

区内に設置されている町名由来板に書かれた文人たちと、その一部の執筆を手がけた現代の作家たちに焦点を当てました。彼らの作品や関連図書から、「文人」や千代田のまちの文化に触れてください。

2F パープルゾーン 三角台 「春 はじまりの季節」(～4/22)

3F ブルーゾーン 「MANGA」(～6/17)

3F ブルーゾーン 「迷～正解のない時代に手がかりを探す～」(～5/13)

日常や社会に数多く存在する課題と決断。そこに潜む「迷」。私たちが向き合わなければならない「迷」を、どう乗り越えるか。解決の糸口を社会・人生・文学・決断の四つのキーワードで探ります。「迷」がある方もない方も、本展示で「迷」と向き合う方法を見つけていただければ幸いです。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

【予告】特別展

『稀書探訪』の旅

鹿島茂コレクション2

「稀書探訪」—仏文学者 鹿島茂氏によるANA 機内誌「翼の王国」での連載は2007年4月から2019年3月まで、実に12年間144回にわたり続きました。本展では、ロマン主義時代の挿絵本や、19世紀を中心とする地誌・風俗画、風刺画入り新聞・雑誌、モードのグラフィック資料ほか、連載で紹介された全144点の稀少な書籍や資料を堂に展示します。フランス古書収集の喜怒哀楽を軽妙な語り口で綴る鹿島氏のテキストとともに、魅惑的な写真で展開された「稀書探訪」のページを飛び出して、稀書本の数々が日比谷図書文化館の展示スペースに踊ります。

写真上)「パリ、ボン・マルシェ・デパートのアジャンド」アジャンド(日記・家計簿)、1920年代～30年代頃、ボン・マルシェ・デパート
写真下)「ラ・ジュネス・イリュストレ」子供向け漫画新聞、バンジャマン・ラビエ他画、1903-1935年、A.ファイヤール 書店

2022年5月20日(金)～7月17日(日)

※休館日:6月20日(月)

(前後期一部展示替えあり)

- ◆前期:5月20日(金)～6月19日(日)
- ◆後期:6月21日(火)～7月17日(日)
- ◆開室時間:月～木・土:10時～19時、金:10時～20時、日・祝:10時～17時(入室は閉室の30分前まで)
- ◆会場:日比谷図書文化館1階特別展示室(日比谷公園1-4) ◆観覧料:一般300円、大学・高校生200円、区内在住者・中学生以下の方・障害者手帳などをお持ちの方とその付き添いの方1名は無料(各種証明証の提示が必要) ◆主催:千代田区立日比谷図書文化館 ◆協力:平凡社、練馬区立美術館、群馬県立館林美術館、ノエマ

◆関連講座 ◆ 申込開始:4月19日(火)～

1 「稀書探訪」連載秘話 —終わりのない古書探しの旅Ⅰ

日時:6月11日(土)14時～15時30分
講師:鹿島茂(フランス文学者)

2 天使はほほえみ、悪魔はささやく —終わりのない古書探しの旅Ⅱ

日時:7月3日(日)14時～15時30分
講師:鹿島茂、荒俣宏(作家)

■会場:日比谷図書文化館地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員:各回100名(申込順) ■参加費:各回1000円
■申込方法:4月19日(火)からホームページの申込みフォーム、電話(03-3502-3340)のいずれかにて
①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。

calendar 開館時間:平日10時～22時 ■土曜10時～19時 ■日祝10時～17時 ■休館日

2022年 4月							2022年 5月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				


! 掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。

access

〔都営地下鉄〕
●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分

〔東京メトロ〕
●丸ノ内線
●日比谷線
「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分
●千代田線
「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分
JR「新橋駅」徒歩10分

※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。



4・5月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

4/7 (木)他

若手歌手たちの台頭で 群雄割拠の時代が始まった欧米オペラ界の今

講師：石戸谷 結子(音楽評論家)

ここ数年は歌手の世代交代が続き、実力ある若手歌手が台頭してきました。いま旬を迎えた歌手たちは、どんな顔ぶれなのか。2019年から2021年ころまでに上演された作品などから、若手歌手たちの未来を占っていただきます。

(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：前編：いまが旬、新世代ソプラノたち、聴き比べ
4月7日(木) 14:00～15:30(13:30開場)
- 後編：いまが旬、新世代テノールたち、聴き比べ
4月19日(火) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名
- 参加費：各回1500円

4/9 (土)

シリーズ：女性たちの芸術 第3回 自立への道のり 女性画家たちの自画像

講師：堀尾 眞紀子(美術史家、文化学園大学名誉教授)

20世紀前半、自画像を描いた女性画家たち、三岸節子、レメディオス・ヴァロ、フリーダ・カーロらは描く・描かれる構図を見事に覆し、自分とは、社会とは、今を生きるとは…様々な問いを観る者に投げかけます。彼女たちの自画像から、2度の大戦を経た時代背景、その中で作品を紡ぎ出す原動力は何かを探ります。

- 日時：4月9日(土)
14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階
日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円



『フリーダ・カーロ 引き裂かれた自画像』 中公文庫(1999)

4/14 (木)

スポーツ自転車を活用しよう

講師：中島 丈博(『Cycle Sports』編集長)

スポーツ自転車は、身近にある自転車よりも速さや快適さが抜群の自転車です。この講座では、安全な乗り方やサイクリングルートの紹介など、スポーツ自転車を楽しむための基礎知識についてお話しいたします。さあ、あなたもスポーツ自転車に乗って春の街に走り出してみませんか。

- 日時：4月14日(木) 19:00～20:30
(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円

※当館には駐輪場はございません。当日、自転車でのご来場はご遠慮ください。



<参加申込>電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

4/27 (水)

千代田区内ミュージアム連携企画 展覧会への入口講座 Vol.32 アンドレ・ポーシャンと藤田龍児 苦悩の中から生み出された奇跡の絵画

講師：富田 章(東京ステーションギャラリー館長)



アンドレ・ポーシャン『川辺の花瓶の花』 1946年 個人蔵(ギャラリーためなが協力)

藤田龍児『デッカイ家』 1986年 星野画廊蔵

活動した時代も国も異なるアンドレ・ポーシャン(1873-1958)と藤田龍児(1928-2002)。2人の画家には興味深い共通点があります。ともに50歳前で画家として新しい歩みを始めたこと、そして困難を抱える中で牧歌的な楽園を描いたことなどです。素朴派などいくつかの視点からふたりの作品を読み解きます。

- 日時：4月27日(水) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名
- 参加費：1000円(千代田区民500円)

5/1 (日)他

<日比谷オペラ塾>上智大学教授・博多かおるが語る短期集中講座(全2回) 『ラ・ボエーム』(プッチーニ)と 『ルイーズ』(シャルパンティエ)にあらわれた都市パリとその習俗

講師：博多 かおる(上智大学教授)

芸術家とお針子を主人公とした二つのオペラを比較し、文学的・社会的な視野をそこに重ねることで、作品の深みをさらに感じたいと思います。まず、19世紀にお針子が文学や当時の職業図鑑等においていかに描かれていたか考察し、ミミとルイーズという主人公の人物像や歌唱を新たな角度から分析します。さらに、二作品で描かれる庶民的なパリの風景や物売りの声を解説し、主人公たちを取り巻く群衆の声や町そのものがオペラの背景に謎めいた奥行きをもたらした経緯を探ります。

(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：前編：お針子はなぜオペラの主人公になったか ～19世紀の文学と音楽に描かれたその魅力と苦悩
5月1日(日) 14:00～15:30(13:30開場)
- 後編：庶民のパリはオペラに何をつけ加えたか ～物売りの声やカフェ・居酒屋、群衆の声が表すものと首都パリの存在感
5月29日(日) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名
- 参加費：各回1500円

5/14 (土)

千代田区民講座 蛍の再生 ～細菌とウイルスへの対処方法～

講師：阿部 宣男(理学博士)

日本各地のホテルの飼育や再生は、その生態に害を及ぼす細菌やウイルスを如何に減らすかに掛かっています。多くの実験や分析を行い、生態系への影響がなく安心して蛍の飼育域の再生を行うことができるナノ純銀の活用が、最も効果的であるとわかりました。自然環境の保護の難しさ、新しい技術についてお話しいたします。

(主催：NPO法人 神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：5月14日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
 - 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 - 定員：60名 ■ 参加費：無料
- ※千代田区民は3月25日(金)から、区民以外は4月1日(金)から受付開始。



5/19 (木)

美術鑑賞への入口講座 美術館をさまざまな視点で愛でる 楽しみ方は展覧会だけじゃない

講師：浦島 茂世(美術ライター)

東京には世界的に有名な美術館がたくさんあります。加えて、大きくはなく、テレビには映らないものの、キラリと光る個性を持つ美術館もさらにたくさん。通わないなんてもったいないことです。コレクションだけではなく、建物やグッズ、カフェなどの魅力が詰まった美術館や美術の楽しみ方をお伝えします。

- 日時：5月19日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：40名 ■ 参加費：1000円



三菱一号館美術館

5/28 (土)

ファッション×SDGs ～大量廃棄社会のその先へ～

講師：仲村 和代(朝日新聞デジタル機動報道部次長) 藤田 さつき(朝日新聞オビニオン編集部次長)

ファストファッションなど低価格で流行の服が購入できるようになった一方、日本で1年間に廃棄される新品の服は10億枚にも上ります。アパレル業界の実態に迫った『大量廃棄社会』の著者である二人を講師に迎え、社会、企業、そして私たち個人が今できることは何かを探っていきます。

- 日時：5月28日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円



仲村和代 藤田さつき

From Chiyoda Public Library ■ 千代田区立図書館からのお知らせ

2nd-Office Series2 図書館でビジネス脳を創る!! これからのビジネスと 変革する働き方

DX(デジタル技術による変革)やAI(人工知能)に焦点を当て、それらの活用によるイノベーションの方向性、起業やフリーランスなどのキャリア構築など8つのテーマに分けて書評を紹介するとともに関連書籍も展示し、あわせて約180冊のビジネス書を展示・貸し出します。

- 会場：2022年3月28日(月)～6月25日(土)
※4月24日(日)、5月22日(日)は休館
- 会場：千代田図書館9階 展示ウォール
- 協力：bookvinegar(ブックビネガー)

5/6 (金)

■ こどもの読書週間 in 千代田区立図書館 <ヨムキクちよだ2022>

現在の子どもの文化と本事情

講師：赤木 かん子(児童文学評論家)

2008年からスマホが爆発的に売れたことで文化には大きな亀裂が入りました。そのときに生まれた人たちは、今現在中学2年生か3年生……、ということはその前後は文化が変わる、読む本や聞く音楽は変わるでしょう。そうして、再び新しい文化に沿った文学が立ち上がってくるのには、たいてい5年ほどかかります。つまり2013年です。そのときに生まれた人たちはいま小学校3年生前後……。つまりはそのあたりでまた大きく文化が変わっているはず。というような、現在の子どもの文化と本事情について、少しお話しいたします。

- 日時：5月6日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：500円(千代田区民 無料)



特 別 研 究 室 ● 企 画 展 示

西洋人が出会った日本 ～幕末から明治～

幕末から明治にかけて日本にやって来た西洋人が目にした日本は、彼らの生活様式とは全く異なる、新鮮で珍しい光景ばかりでした。今回の企画展示では特に庶民の生活を記録した蔵書を中心に所収の図版パネルを展示し、往来(街道)、娯楽、西洋人が描いた富士山、西洋と日本の仲介役であった通詞などから西洋人が出会った日本の姿を紹介します。



Traveling in the KAGO (『Around the world with General Grant 2』 / John Russell Young / 1879年)

- 《主な展示図書(予定)》
- 『The capital of the Tycoon 1・2』(Rutherford Alcock/1863年)
- 『Die Preussische Expedition nach Ostasien』(Gustav Spiess/1864年)
- 『A narrative of a journey to the capitals of Japan and China』(Robert Fortune/1863年)

『日本その日その日 上・下』(E.S.モース/1929年) ほか

- 期間：2022年 4月19日(火)～6月30日(木)
- ※休館日：5月16日(月)、6月20日(月)
- 開室時間：平日10:00～20:00 土曜10:00～18:00 日曜・祝日10:00～16:00
- 会場：4階特別研究室

入場無料

